

今度の総選挙にあたって——みんなのための政治を、取り戻す

野党候補の勝利をのぞむすべての三重県民のみなさんへ。

来る第48回衆議院議員総選挙の三重県第1区と第2区で、事実上の野党統一候補が誕生しました。このお手紙では、「市民連合みえ」が全力で応援することを決めた松田直久さん（第1区）と中川正春さん（第2区）の横顔を紹介し、この共闘が実現した経緯をあらためてお伝えします。そして、総選挙にむけて私たちがやるべきことを提案したいと思います。

市民と野党の統一候補が実現しました



「市民連合みえ」のメンバーと懇談する松田直久さん

昨年2016年の参院選で、私たちは野党統一候補として芝博一さんを全力で支援しました。市民と野党の共闘によって芝さんが見事に国政に復帰したことはご承知のとおりです。芝さんは「安倍政権下での憲法改悪をゆるさず、安保法制を廃止する。そのために総選挙でなんとしても野党共闘を実現し、勝利に向けて努力したい」とたびたび発言してきました。芝さんご自身が参院選中に「私も変わった、みんなも変わった」と述べたことは、芝さんのその後の発言や行動でも裏付けられました。

市民と野党の共闘が政治家をつくり、政党を動かしていく。私たちは、このことを胸に刻んでいます。

今回の総選挙は、安倍晋三首相の「疑惑隠し解散」に端を発したものです。ほとんどの市民や野党はこの事態を予想しておらず、さまざまな混乱が生まれました。安保法制を容認し、安倍政権下での憲法改悪をアシストする新党「希望の党」も登場しました。その結果、野党第一党で立憲野党の民進党にも大きな亀裂が入りました。

そうしたなかで、三重県選出の民進党の前衆院議員は、さまざまな曲折はありつつも、無所属での立候補という厳しい道を選択するに至りました。松田直久さんは「ほとんど寝る暇もなく」考えつづけ、支援者や国民に恥ずかしくない態度を示すためには無所属での立候補しか道がないと判断されました。中川正春さんは「新党は世界観が違う」と公認申請を取り下げ、「もとより安倍政権に協力する気はいっさいない」と断言しました。

「市民連合みえ」は、松田さん、中川さんご本人と何度も懇談を重ね、安保法制の廃止、安倍政権の下での憲法改悪をゆるさない姿勢にブレがないことを確信するに至りました。また、私たちは民進党三重県連代表の芝博一さんとも懇談を重ね、三重県連として無所属立候補者も支援すること、安保法制の廃止や安倍政権下の憲法改悪阻止に揺らぎはないこと、を確認してきました。

その結果、本日10月6日、「市民連合みえ」は、①安全保障関連法を廃止する、②立憲主義を回復し、個人の尊厳を擁護する政治を実現する、③安倍政権による憲法改悪を阻止する、④アベノミクスによる生活破壊を許さず、格差を是正し、公正な社会をつくる、という4つの協定を公約する三重県第1区・2区の無所属立候補者を支援することを発表し、この点を民進党三重県総支部連合会と確認しました。さらに、この事実について、日本共産党三重県委員会、社会民主党三重県連合が支持することも確認しました。



「市民連合すずか」のイベントに登壇する中川正春さん

本日の記者会見で、民進党三重県連の三谷哲夫代表代行は「松田さんと中川さんは、公認申請すれば『希望』から立候補できる状況だったにもかかわらず、それをしなかった。お二人が『希望』に合流することはありません」と発言しました。この点もたいせつな点です、

松田さんと中川さんを市民と野党の統一候補として、応援できる枠組みが整いました。

みんなのための政治を取り戻す

私たちの腕の見せどころはここからです。

昨年の参院選で、私たち市民と民進党、共産党、社民党の立憲野党は、さまざまな行きがかりや立場の違いを乗り越え、結びつき、芝博一さんを当選させました。市民と野党の共闘を推進し、安保法制の廃止や憲法改悪を公約する国会議員を国政に戻したのは私たち市民です。県内のすべての市民が手をつないだからこそ実現したたいせつな成果です。このことをいまいちど思い返しましょう。

松田さんと中川さんの選挙区はいずれも激戦・伯仲の状況です。一人でも多くの無党派市民に松田さんと中川さんの政策を広げ、多くの市民の共感を得ることが勝敗のカギを握ります。勇気のある道を踏み出した二人の候補者を励まし、私たちが草の根からとりくみを進めればかならず勝利できます。



**VOTE
TOGETHER**

「市民連合みえ」のメンバーは、市民が集まることのできる場を節目節目で設けていきます。どうかこの場に多くの方が集まってください。電話かけやポスティングなどのボランティアスタッフもたいへん貴重です。市民と候補者の連絡が円滑にすすむよう、さまざまな手段を講じます。

総選挙後の未来を予想することはできませんが、安保法制の廃止や憲法改悪阻止を掲げるリベラルな勢力が国政において存在感を発揮することがきわめて重要な状況になることはまちがいありません。そのときに、「私たち市民が横につながり、松田さんと中川さんを国政に戻した」と胸を張れる結果をつくりましょう。

「市民連合みえ」は、そのための「大きな船」となります。

以上

